常高寺だより

あまね

発行年月日
2023年10月20日
発行所 常高寺
今治市風早町4-1-13
TEL 0898-22-2264

親鸞聖人ご誕生８５０年の大法要！

本年は「親鸞聖人ご誕生８５０年」「浄土真宗という宗派が開かれて８００年」を迎える記念すべき年。西本願寺で、その大法要が執り行われました。３月30日、常高寺からは私を含めて10名の参加。日帰り旅行となりました。（参拝者は人数制限もあり、ご法座の際に希望者を募らせていただきました。）

↑きれいに整備された境内。天候にも恵まれ絶好のお参り日和でした。

法要は華やかの一言。コロナ禍の影響もあり４年ぶりとなった本願寺参拝。50年に一度の大行事。強行軍で皆さんも大変だったでしょうが、本当に貴重で楽しいご法縁を共に過ごさせていただきました。ありがとうございました。

→たくさんのお参り。

→皆でお食事というのも本当に久しぶりのことでした。

常高寺 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

常高寺の全ての情報がここに！「今治 常高寺」でご検索ください。

漫画 ブッダから親鸞へ

継職法要の際、編纂しお配りした、前住職 加藤泰憲の仏教漫画集。電子書籍にて好評発売中です。

第二弾漫画集『闡提』(せんだい)もぜひ！
詳細はﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞにて。

常高寺キャラクター紹介

きくぞう君

- 趣味はご法話を聞くこと(たまに寝る)
- 愛用の袈裟懸け鞄で散歩するのも好き
- 牛乳好き

きくひと君

- 趣味は仏教話付きの服の収集
- 自称「きくぞう君の友達」。しかしてその実体は・・・？
- 詳しくはウェブで

目次

■２頁　仏教学基本講座①
■３頁　仏教学基本講座②
■４頁　活動報告①
■５頁　活動報告②
■６頁　活動報告③
■７頁　活動報告④
■８頁　質問コーナー　おしらせ

今月の掲示板のことば

法語説明

「普通と言われる人生を送る人間なんて一人としていやしない。いたらお目にかかりたいものだ」

ｱﾙﾍﾞﾙﾄ・ｱｲﾝｼｭﾀｲﾝ

仏教学講座

住職さんに聞くゾウ！（第六話）「空ってなんだゾウ？（前編）」

前後の話（※最新19話）はホームページでも確認出来ます。

●前話のあらすじ

・「縁起」「無常」「無我」などの「法」は、私たちの生きる世界全てに通ずることわり。なのに人は、その世界で「われ」「わがもの」と永遠性・絶対性を求めてしまい、当然叶わないので「苦」が生まれる。
・「法」を見失うことで「苦」が生まれるのだから、「法」を見出すことによって「苦」から離れなさいと仏教は説く。
・「法」に目覚めることによって、「自分」という色眼鏡を外し、ありのままの世界を見ることが出来る。
それは「苦」にも「楽」にも偏らない境地（中）。
・この「縁起」「無常」「無我」の「法」をより明瞭にした教え、「空（くう）」とはなにか→今回はここ！

「きくぞう君は『色即是空（しきそくぜくう）』って聞いたことある？」

「知ってる！たしか『はんにゃしんぎょう』ってお経のことばだゾウ！！」

「そう、『般若心経（はんにゃしんぎょう）』。実は『般若経』と呼ばれるお経はいくつもあるんだけど、その中でも要点が纏められた最も短いものが『般若心経』なんだ。正式には『般若波羅蜜多心経（はんにゃはらみったしんぎょう）』だね。浄土真宗では基本お勤めしないんだけど、四国はお土地柄もあるのかな？暗唱されている方も多いね。」

「『まーかーはんにゃーはーらーみーたーしんぎょー♪』で始まるよね！どういう意味なの？」

「あぁ、それはインドのお経の言葉の『プラジュニャー・パーラミタ』が由来でね。意味は『完成された智慧』。だから般若心経は『智慧のお経』と言われるんだ。その智慧の中心が『色即是空』の『空（くう）』の思想なんだよ。」

「くう？」

「日本に伝えられている仏教の殆どは大乗仏教（大きな乗り物の意。多くの人が仏になれる教えという意味）というんだけどね。仏教にも色んなグループがあって、その話はまた別の機会にしたいのだけど、その大乗仏教というグループの基盤となる思想がこの『空』とされているんだ。」

「日本の仏教にとって『空』はとても大切な教えなんだね！だから『般若心経』は日本で有名なお経なのかな？」

「そうかもしれないね。そしてそういった『般若経』の『空』の思想を取り上げ、確立・大成された方がインドの『ナーガルジュナ』という方でね（2～3世紀頃）。漢名は『龍樹（りゅうじゅ）』。その名前は『正信偈（しょうしんげ）』という浄土真宗のお勤めの中にも出てくるんだよ。」

「浄土真宗にとっても、とても重要な方なんだね！その『空』って一体何なんだゾウ？？」

「『空』は、インドのお経の言葉の『シューンヤ』の漢訳でね。直訳すると『からっぽ』という意味かな。思想としての『空』は次の様に説明されるんだ。」

全てのものは因縁によって仮に和合して存在しているのだから、不変の実体、本体の様なものは、なにものにも存在しない。つまり空（くう）である

「だから『色即是空』は『色（すがた・かたちのあるもの）には本質的には実体がない』という意味なんだよ。」

「『実体がない』っていうところを『空』という言葉で表わしているんだね。なんだか『縁起』『無常』『無我』の『法』（※第四話～第五話参照）と似てるゾウ？？？」

人物紹介

常高寺の住職。最近、NHKの朝のラジオ体操にはまっている。

きくぞう君。常高寺の公式キャラクター。活動限界が近づくと、額のボタンが点滅するらしい。

「そうだね。だから龍樹菩薩は何も新しいことを説かれたというわけではなくね。お釈迦さまの説かれた『法』を再確認し、お釈迦さまの入滅後、伝わりにくかった部分、誤解される傾向にあった部分を、『般若経』の『空』という思想を用いて明らかにしようとした方だと思うんだ。」

「『空』の思想でどんなことを明らかにしたの？？？」

「もちろん本質的には『縁起』『無常』『無我』の『法』と同じことを説いているんだよ。つまり、いかなるものにも不変の実体はないという立場だね。ただ龍樹菩薩の『空』の思想は『何に実体がないのか』ということを、より詳細に示しているんだ。そこで『空』の対象には、人間や物質的存在だけでなく、私たちが物事に対して抱く考えやイメージ、判断も含まれていることが分かるんだ。」

「？？？。僕たち自身や回りの色んな『物』が『空』っていうのは分かるよ。時間と共に変化していく実体のないものってことだよね？でも、僕たちが考える事やイメージも『空』ってどういうこと？形のないものだよね？」

「うん、そう思うよね。じゃあ少し話は変わるけど、きくぞう君は友達に腹が立ったり嫌だなって思うことある？」

「え！そんなのないよ、、、と言いたいところだけど、実は時々あるゾウ。。。」

「どんな時にかな？？」

「ん～。自分の好きなものを好きじゃないって言われたり、逆に自分が嫌だなって思うことが褒められていたり、そんな時にモヤモヤしてるかも。それに友達のためにしてあげたことが分かってもらえなかった時は悲しくなるゾウ。」

「うんうん。確かに意見が違った時は、『何で分かってくれないのか』であったり『自分の方が絶対正しいのに』と思うよね。『自分ばかり我慢している』とかね。」

「そうなんだ。けんかになりたくないから、いつもボクの方が我慢してあげてるんだゾウ！」

「なるほど。でも、もしかしたらそんな時は、お友達も同じ様に我慢してるかもしれないね。」

「ぞぞう！！どういうことだゾウ？？？」

「前回、色眼鏡の話をしたことを覚えてるかな？私たちは『自分の都合』というフィルター付きの色眼鏡を通して世の中を見ていてね。この色眼鏡の色は人によってみんな違う。『赤い眼鏡』の人には世界は赤く、『黄色い眼鏡』の人には黄色く見える。だから『自分が正しい』『自分が好ましい』と思っていることが、必ずしも他の人にとってそうであるとは限らないんだ。」

「そう言われると。。自分のことばっかりで、相手のことあまり考えてなかったかも。。。」

「うん、その視点はとても大切なことだね。様々な地域や国々がそれぞれ持つ価値観や倫理観、宗教観にも同じことが言えるんじゃないかな。場所が変われば、考え方も風習も異なる。同じ場所であっても時代が移れば考え方も変わる。いつまでも変わらない絶対的な『基準』は存在しないんだ。私達の持つ価値観や論理も『無常』『無我』の『法』という『ことわり』の中の存在。絶対的な『善悪』や『優劣』等の基準を私達は求めがちだけど、そんなものは存在しない。『空』だと。仏教はこう説くわけだね。」

「なるほど。。。物だけでなく、ぼくが考える正しさや好き嫌いも、『無常』『無我』で『空』なんだね。」

「そうだね。自分の考えに執着しすぎると嫌な気持ちが生まれるし、争いの元となる。だから仏教は『自分』という色眼鏡を外して偏った見方から離れなさいと説くんだ。」

「今度から、けんかになりそうな時は『自分が正しい』とばかり思わず、相手の立場も考えてみるゾウ！」

「うん、それがいいんじゃないかな。今回はここまで。次回も引き続き『空』の思想について考えてみよう。」

次回　第七話「空ってなんだゾウ？（後編）」に続く

動告 活報

←縮小していた行事も徐々に元の形に。常高寺の一年の活動報告です。

（※紙面の関係上、一部の掲載です。行事の全容は常高寺ホームページの「おしらせ」欄にて確認できます。）

令和４年９月　秋季彼岸会法座

お浄土（彼岸）に往かれた方を偲び、ご法縁に出会う、秋の彼岸会法座。台風の接近で心配していましたが、比較的被害も少なく、無事開催出来ました。ご講師は大阪府泉佐野市 光瀧寺の喜多唯信先生。門徒会館が出来て初めてのご法座。皆さん興味津々で見学。特に本堂入口につながるスロープが好評でした。

令和４年10月　秋季永代経法座

「永代」に「経（仏さまの教え）」が伝わりますようにと願い、お勤めされる大切なご法要。ご講師は、広島県神石郡 法泉寺のご住職 川上順之先生。浄土真宗の思想を他宗との違いも含めて分かりやすく丁寧に、お話ししてくださいました。

令和４年10月　案内看板作成！

様々な宗派のお寺が集まる今治市の寺町。そのお寺の一つが常高寺です。そのためか他所のお寺と間違えて迷われる方が続出。この度の門徒会館の建設にあたり、この点も改善しようと看板屋さんに依頼。各所に案内看板を設置しました。マスコットキャラクター「きくぞう君」の看板も作成。ピンクボディが中々のインパクト！お立ち寄りの際はぜひ目印にしてください（↓次欄に写真）。

令和４年11月　報恩講法座

親鸞聖人のご命日を縁とする本法座。私（住職）がご法話を担当。日常の仏事について、ご門徒の皆さんから特に質問されることを取り上げ、お話ししました。日常の仏事全ては仏法に出会えるご縁に繋がります。ほんの僅かでも、この法座がその手助けになれば良いなと。その年最後のご法座。無事開催できてホッとしました（←次頁に写真）。

←各所に案内看板設置

←報恩講法座。たくさんのお参りでした。

令和４年12月　除夜の鐘
令和５年１月　修正会

一年を締めくくる除夜の鐘と新年の初参りである修正会（しゅしょうえ）、皆さま、ようこそようこそのお参りでございました。（↓次欄に写真）

←（右）除夜の鐘、（左）修正会の様子。

令和５年１月　御正忌報恩講法座

親鸞聖人の祥月命日をご縁とする、御正忌報恩講（ごしょうきほうおんこう）。ご講師は、福山　光源寺の北山祐章先生。迫力ある語り口で、お念仏のこと、お浄土のこと、親鸞聖人の足跡等々、幅広く丁寧にお取次ぎくださいました。熱意溢れる板書にチョークの粉が舞っているのが印象的でした（↓次欄に写真）。

令和５年３月　春季彼岸会法座

春のお彼岸法座。ご講師の先生は、大阪 定専坊の山本攝叡（せつえい）先生。遠方よりお越しいただきました。「お聴聞とは量ることの出来ないものを聞くこと」。何事も理屈で考えてしまいがちな私にとって、大切なお話でありました。

令和５年３月　西本願寺団体参拝

※表紙（一頁目）に掲載。

令和５年４月　春季永代経法座

春の永代経のご法座。ご講師の先生は越智郡上島町 太平寺のご住職、深水健司先生。阿弥陀さまやお念仏の働きの話を中心に、一席の短い時間にも関わらず、丁寧に分かりやすく、語りかける様にお取次ぎしてくださいました。

令和５年５月　ご本尊コーナー設置

「お仏壇を購入したのでご本尊をお迎えしたい」「お仏壇を置く場所がなく小さなものを探している」といったご相談を最近よく伺います。そこで、西本願寺からお迎えできる「ご本尊（掛軸）」と「小仏壇（置き式のご本尊）」の展示コーナーを本堂に設けました。揃えて拝見すると中々圧巻！実際にどんなものか見てみたい、お迎えしたいという方は、ぜひご来寺ください（↓次欄に写真）。

←西本願寺からお迎えできるご本尊

令和５年５月　降誕会法座

お釈迦さまと親鸞聖人の誕生日をお祝いする降誕会・花祭り法座。ご講師は、大三島万福寺の浅野執持先生。時折ジョークやなぞなぞを交えながら、阿弥陀さまのことをお話しする柔らかなご法話。思わず聞き入ってしまい、いつのまにか終了時間になっていた。そんなご法話でした。甘茶をかける花御堂も設置して華やかなご法座となりました。

令和５年７月　お盆法座

夏の盆法座。ご講師は、先日、中央仏教学院学院長（本願寺の僧侶養成機関）に就任されました福間義朝先生。阿弥陀さまの慈悲、南無阿弥陀仏の働きを、お話ししてくださいました。たびたび皆で「南無阿弥陀」をお称えしましょうとお話ししていたのが印象的でした。

令和５年９月　秋季彼岸会法座

体調を崩してしまい（新型コロナ）見送らせていただきました。当日はお寺の法務員がお勤めしました。お参りを予定されていた方々、申し訳ございません。ご心配をおかけしました。

令和５年10月　秋季永代経法座

※次回の寺報に掲載します。

⇦門徒会館を利用した行事

一年前に完成した門徒会館。その活用はこれから大切に考えていきたい課題です。皆さんと一緒に色んなことができたらいいなと思います。

令和５年１月　初釜お茶会

会館には和室が二部屋あります。普段は法要等の行事の際に、僧侶や講師の控えの間として使用するこの空間。実は炉を切っていて、お茶室としても利用可能です。これはぜひ活用したい！そこで、代々常高寺とご縁があります先生に、新年最初の初釜（はつがま）お茶会を開催していただきました。総勢約３０名によるお茶会。心地よい時間でした。

令和５年６月・９月　薬膳勉強会

「薬膳（やくぜん）」の勉強会。今年の夏（６月）と秋（９月）に開催しました。ご講師は、お手当サロンうてなの薬膳師、森髙亜矢子さん。薬膳の基礎の基から始まり、季節に合わせた献立作り、薬膳茶の試飲会、質問会といった内容。あっという間に定員になりました。お寺に初めて来られたという若い方も。お寺に親しまれる方が増えたらいいなあと思います。冬にも開催予定。皆さまようこそのお越しでございました。

よくある質問コーナー

お寺Q&A

※このコーナーでは常髙寺によく問い合わせのある質問にお答えしています。

質問

「浄土真宗は、お位牌を用いないのですか？」

答え

宗派としては原則用いません。ただ、土地土地の習慣で用いられることはあります。うちのお寺も葬儀の際に、白木の位牌が用意されているので書かせていただく実状がありますが、本来は必要のないものだと思います（白木の位牌は基本的には四十九日法要終了後に処分しています）。もともと「位牌（いはい）」は、先祖の生前の官位と姓名を牌（ふだ）に書き祀る、儒教の習わしに起源があるそうです。魂の宿り木のようなイメージでしょうか。仏教はその時代その土地に合わせ、様々な習俗を取り入れ、現在の形となりました。元々の由来が仏教ではないからといって、その全てを否定するのも問題がある気はします。ただ浄土真宗は、阿弥陀さまの働きと、それによる亡き方の浄土への往生を中心に考えますので、「魂の宿る場所」として位牌を亡き方と見立てるのは、宗風にそぐわないのかと思います。浄土真宗では「過去帳」を用います。亡き人の名前、法名、命日、年齢などを記したものです。先祖の記録帳のようなものと考えてください。位牌のように魂の宿る場所といった意味合いはありません。こちらを見て「もうすぐ○○の□回忌だなぁ」と、亡き人を偲ぶ縁（よすが）としていただければと思います。

おしらせ

今後の行事予定

【令和五年】

十一月二十三日（木）
報恩講法座　当山住職

十二月三十一日（日）
除夜の鐘

【令和六年】

一月一日（月）
修正会（初参り）

一月十三日（土）
ご正忌報恩講法座　能美顕之先生

三月二十二日（金）～二十三日（土）
春季彼岸会法座　岡原弘和先生

四月二十五日（木）～二十六日（金）
春季永代経法座　中西昌弘先生

五月十八日（土）
降誕会・花祭り法座

七月十九日（金）～二十日（土）
盆会法座　喜多唯信先生

きくそう君　きくひと君　を探せ！

紙面のどこかに次のきくぞう君ときくひと君がいるよ！

か、活動限界だゾウ！

体調不良だゾウ

「ちぇっ！」だゾウ

安心だゾウ

バルーン住職コラム 第三回

阿弥陀様と南無阿弥陀仏を風船で表現してみました。どちらも浄土真宗のご本尊。普段お仏壇の中で分かりづらいですが、実は阿弥陀様は前に傾かれています。煩悩を離れるための「仏」の「真理」から程遠い「私」。その「私」のために、「真理」の方から親しみやすい形を取り、歩み寄ってきた姿が「阿弥陀様」であり、その前傾姿勢は私を見捨てず駆け付けんとする慈悲のあらわれだと言われます。そして「南無阿弥陀仏」は、「あなたを必ずお浄土にて仏に成らせるぞ」という阿弥陀様からの働きかけ、呼び声であると味われています。いつでもどこでも寄り添い、私の口から飛び出す阿弥陀様。南無阿弥陀仏が「ことばの仏さま」と呼ばれる由縁です。

←前傾姿勢

編集後記

門徒会館完成から約一年。会館でのご法事が大人気で、本堂よりも使用率が高いかもしれません(笑)。ご活用いただければ幸いです。なおコロナ禍で見送っていましたが、会館完成を祝う法要も計画しております。稚児行列等、子供さんも参加できる行事にしたいなと。予定では来年の冬。皆さんの協力により完成した門徒会館です。ぜひ、ご一緒にお祝いしましょう。

常高寺住職　加藤大地